

第 27 回医療薬学公開シンポジウム開催報告

日本大学薬学部
中村 均

平成 19 年 10 月 27 日(土)に日本大学会館(東京、市ヶ谷)において、日本医療薬学会第 27 回医療薬学公開シンポジウム(主催:日本医療薬学会、共催:日本大学薬学部・茨城県病院薬剤師会、実行委員長:中村均、幸田幸直)を開催いたしました。今回のメインテーマは「医療に求められる薬剤師育成のための実務実習」とし、目前に迫った実務実習を成功させるために、大学、病院、薬局、参加者が現状の問題点などを含め、本音で議論しようという趣旨で開催いたしました。

当日は台風 20 号の影響で、朝からの強風・大雨と悪天候にもかかわらず、175 名の参加がありました。参加予想人数をかなり下回りましたが、関東甲信越地区からの参加だけでなく、北海道、長崎、山形、福島、石川、京都、愛知など遠方からの参加も多くあり、実務実習に対する関心の高さが伺えました。

本シンポジウムでは、大学は中村(日本大学)と旭満里子先生(国際医療福祉大学)、病院は本間真人先生(筑波大学附属病院)と山村喜一先生(東京通信病院)、薬局は磯崎貞夫先生(東京都砦薬剤師会)と小川敦先生(千葉県八千代市薬剤センター)から、それぞれの立場で平成 22 年から開始される実務実習に対する考え方、実習開始に際しての問題点および解決案などが提示され、参加者との間で活発な討論が行われました。特に、大学での事前学習の内容などが受入側では不明であり、大学の教員と受入側の指導薬剤師の間で事前学習と病院・薬局実習の整合性などを含め、十分な話し合いを持つことが要望されました。このことから、いまだに大学側と受入側の意思の疎通が不十分であり、より緊密な連携の必要性を強く感じました。また、シンポジスト間でも、卒前の実務実習に求める到達目標や実習期間が異なり、実務実習モデル・コアカリキュラムの見直しや実務実習に関する医療現場からの積極的な意見の提出などが求められました。その他、認定指導薬剤師ならばモデル・コアカリキュラムの指導が実際にできるのか、モデル・コアカリキュラムを指導するにはどうしたら良いのか、など早急に解決しなければならない問題も提起されました。

本シンポジウムでは、本音で活発な討論がなされ、実務実習を成功させるために短期間で解決しなければならない問題点も多く浮かび上がり、大変有意義なシンポジウムであったと感じています。